

# 日経SDGsフェスティバル(未来会議)

## 投資家・企業のESG動向 ～ 持続可能な社会を金融で支える ～

---

2020年5月11日  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
アセットマネジメント事業部

# 責任投資の動向

---

## 全世界の責任投資残高（2016年～2018年）

残高（2018年 全残高）：30兆6,830億ドル（約3,375兆円）

伸び率（2016年～2018年）：+34.0%（年率+15.8%）

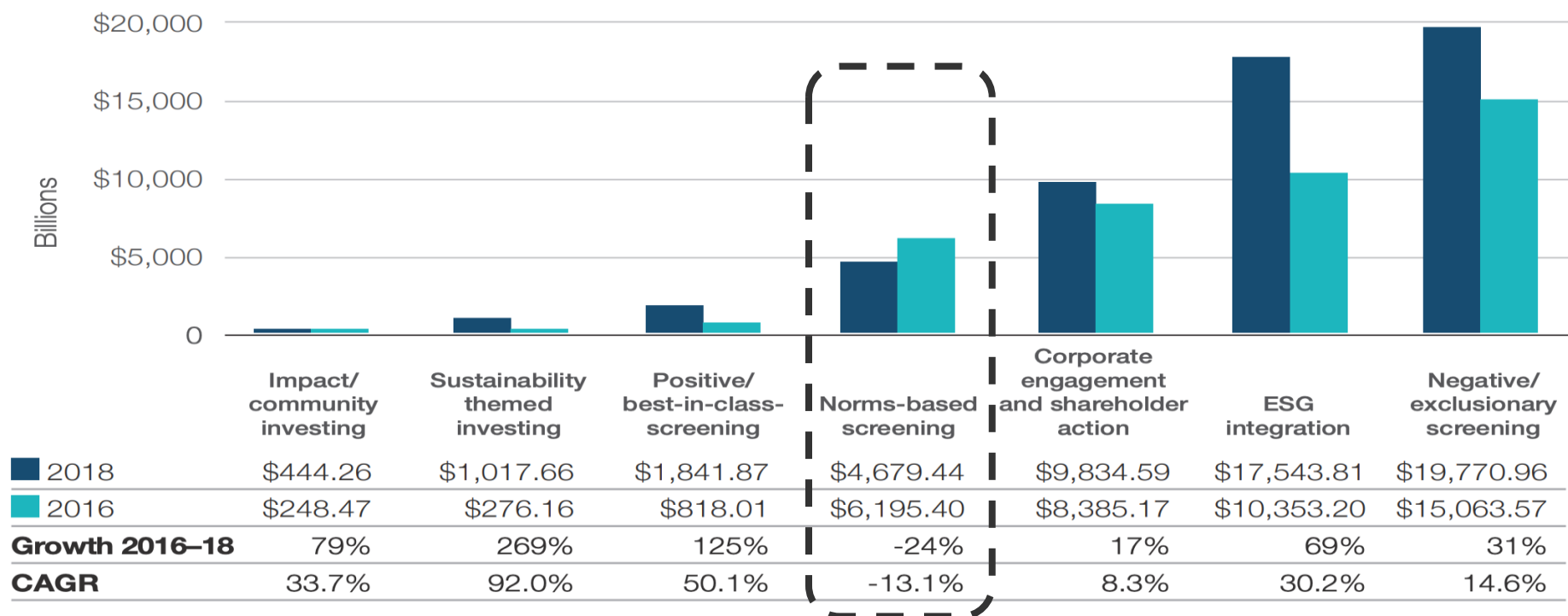
Region	2016	2018
Europe	\$ 12,040	\$ 14,075
United States	\$ 8,723	\$ 11,995
Japan	\$ 474	\$ 2,180
Canada	\$ 1,086	\$ 1,699
Australia/New Zealand	\$ 516	\$ 734
<b>TOTAL</b>	<b>\$ 22,890</b>	<b>\$ 30,683</b>

Note: Asset values are expressed in billions of US dollars. All 2016 assets are converted to US dollars at the exchange rates as of year-end 2015. All 2018 assets are converted to US dollars at the exchange rates at the time of reporting.

出所:「Global Sustainable Investment Review(GSIR)」2018年版統計

## 責任投資スタイル別残高（2016年と2018年の比較）

規範に基づくスクリーニング（Norms-based screening）のみ残高減少。示唆することは？



Note: Asset values are expressed in billions.

Some corrections to the 2016 strategies have been made. See the Methodology section for more information.

出所：「Global Sustainable Investment Review (GSIR)」2018年版統計

# 変化する投資家の注目度

➤ 投資家が重要と考えるESGテーマは、市場環境、各国事情等に応じて変化する。

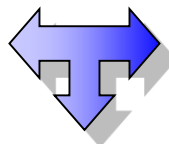
## ESGへの取り組みの重要度

■現在、各国の投資家が重要と考える「CSR取組みテーマ」

CSR取組みテーマ	米国	英国	欧州	豪州	シンガポール
企業集会	0%	16%	9%	0%	11%
温暖化現象	5%	21%	17%	22%	11%
コーポレートガバナンス	57%	68%	65%	56%	67%
従業員関係	30%	16%	9%	44%	11%
環境マネジメント	8%	16%	22%	33%	22%
グローバルリゼーション	76%	68%	78%	67%	33%
健康問題(エマージング国)	11%	16%	4%	22%	33%
人権問題	5%	11%	17%	22%	22%
持続成長	22%	16%	26%	33%	33%
テロリズム	43%	37%	35%	67%	44%
水質問題	3%	5%	13%	11%	22%

■5年後、各国の投資家が重要になるであろうと考える「CSR取組みテーマ」

CSR取組みテーマ	米国	英国	欧州	豪州	シンガポール
企業集会	8%	11%	17%	22%	11%
温暖化現象	22%	42%	57%	33%	22%
コーポレートガバナンス	62%	53%	61%	67%	56%
従業員関係	32%	32%	30%	56%	22%
環境マネジメント	24%	47%	57%	67%	33%
グローバルリゼーション	65%	53%	65%	56%	22%
健康問題(エマージング国)	22%	32%	17%	22%	22%
人権問題	11%	21%	13%	22%	33%
持続成長	24%	47%	48%	56%	11%
テロリズム	49%	32%	30%	56%	22%
水質問題	32%	32%	48%	33%	33%



■現在と5年後の変化

CSR取組みテーマ	米国	英国	欧州	豪州	シンガポール
企業集会	8%	-5%	8%	22%	0%
温暖化現象	17%	21%	40%	11%	11%
コーポレートガバナンス	5%	-15%	-4%	11%	-11%
従業員関係	2%	16%	21%	12%	11%
環境マネジメント	16%	31%	35%	34%	11%
グローバルリゼーション	-11%	-15%	-13%	-11%	-11%
健康問題(エマージング国)	11%	16%	13%	0%	-11%
人権問題	6%	10%	-4%	0%	11%
持続成長	2%	31%	22%	23%	-22%
テロリズム	6%	-5%	-5%	-11%	-22%
水質問題	29%	27%	35%	22%	11%

■ 各国で最も注目度の高いテーマ  
 ■ 今後大きく変化が予想されるテーマ  
 (テーマ選択は複数回答)

出所: Mercer Investment Consulting

# 弊社の取り組み事例

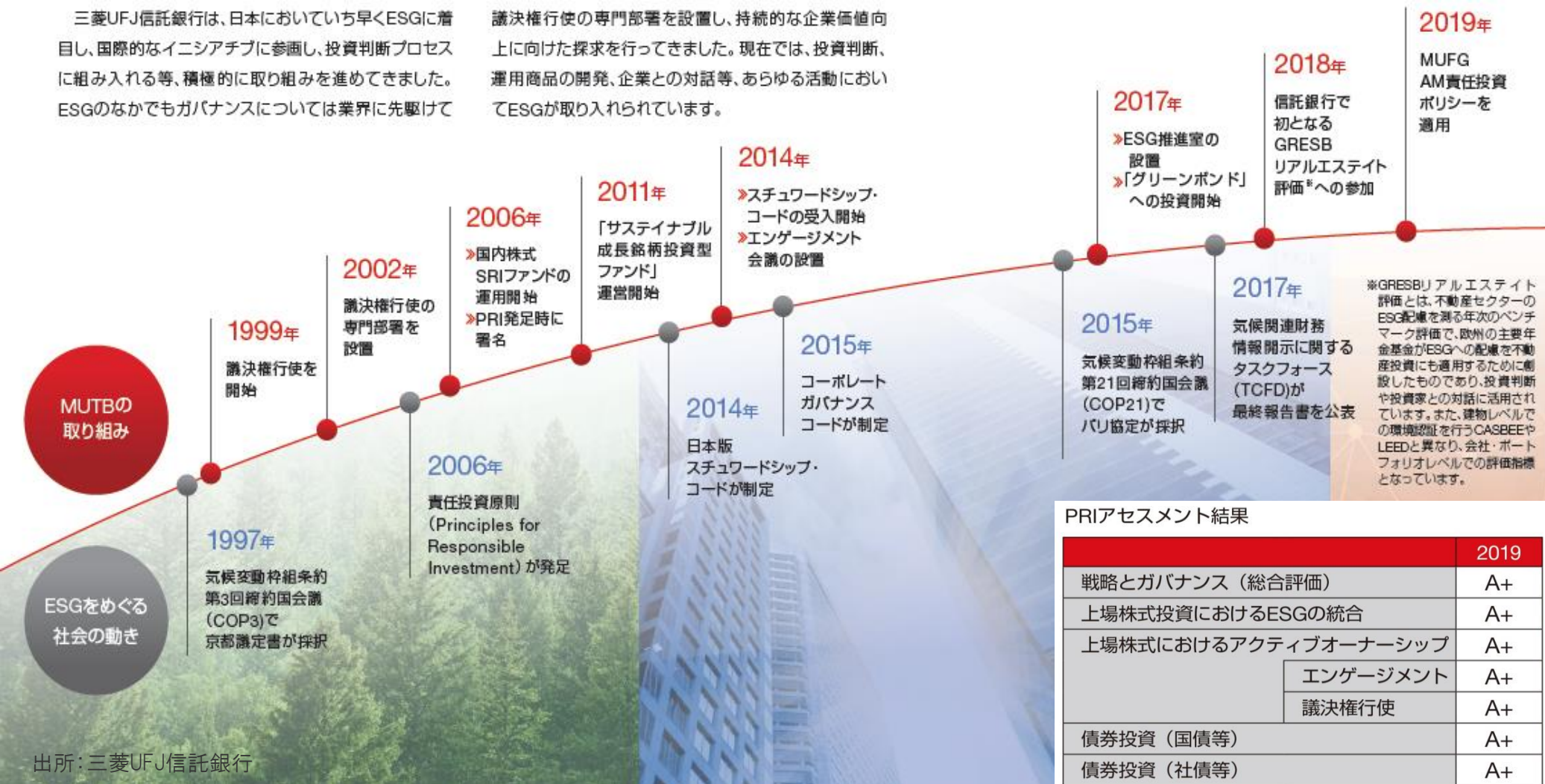
---

# 弊社における責任投資の歩み

➤ 全ての投資活動において、ESGを考慮していくための取り組みを拡充。

三菱UFJ信託銀行は、日本においていち早くESGに着目し、国際的なイニシアチブに参画し、投資判断プロセスに組み入れる等、積極的に取り組みを進めてきました。ESGのなかでもガバナンスについては業界に先駆けて

議決権行使の専門部署を設置し、持続的な企業価値向上に向けた探求を行ってきました。現在では、投資判断、運用商品の開発、企業との対話等、あらゆる活動においてESGが取り入れられています。



PRIアセスメント結果

	2019	
戦略とガバナンス (総合評価)	A+	
上場株式投資におけるESGの統合	A+	
上場株式におけるアクティブオーナーシップ	エンゲージメント	A+
	議決権行使	A+
債券投資 (国債等)	A+	
債券投資 (社債等)	A+	

出所: 三菱UFJ信託銀行

# 弊社における「重大なESG課題」

## (1) 「重大なESG課題」を考慮する理由

### ◆ 「目指す姿」の実現に必要不可欠

「安心・豊かな社会」を実現するためには、グローバルな視点から社会や環境への影響の大きい「重大なESG課題」の把握・分析・特定・解決が不可欠です。

## (2) 「重大なESG課題」を考慮する範囲

### ◆ 全ての運用資産・全ての運用戦略

弊社は、MUFG AM「責任投資ポリシー」に基づき、「重大なESG課題」を全ての運用資産・全ての運用戦略で考慮し、責任投資への取り組みを推進していきます。

出所：三菱UFJ信託銀行

## (3) 「重大なESG課題」を特定するフレームワーク

### ◆ 社会にとっての重要度（縦軸）

グローバルESG関連規制・ステークホルダー動向を基礎情報として把握し、重要度を評価。

### ◆ MUTBの運用における重要度（横軸）

弊社の運用資産における影響度、エンゲージメントの実効性等を考慮し、重要度を評価。

## マテリアリティ・マトリクス

(イメージ)





## マテリアリティ・マトリクス（2020年1月現在）

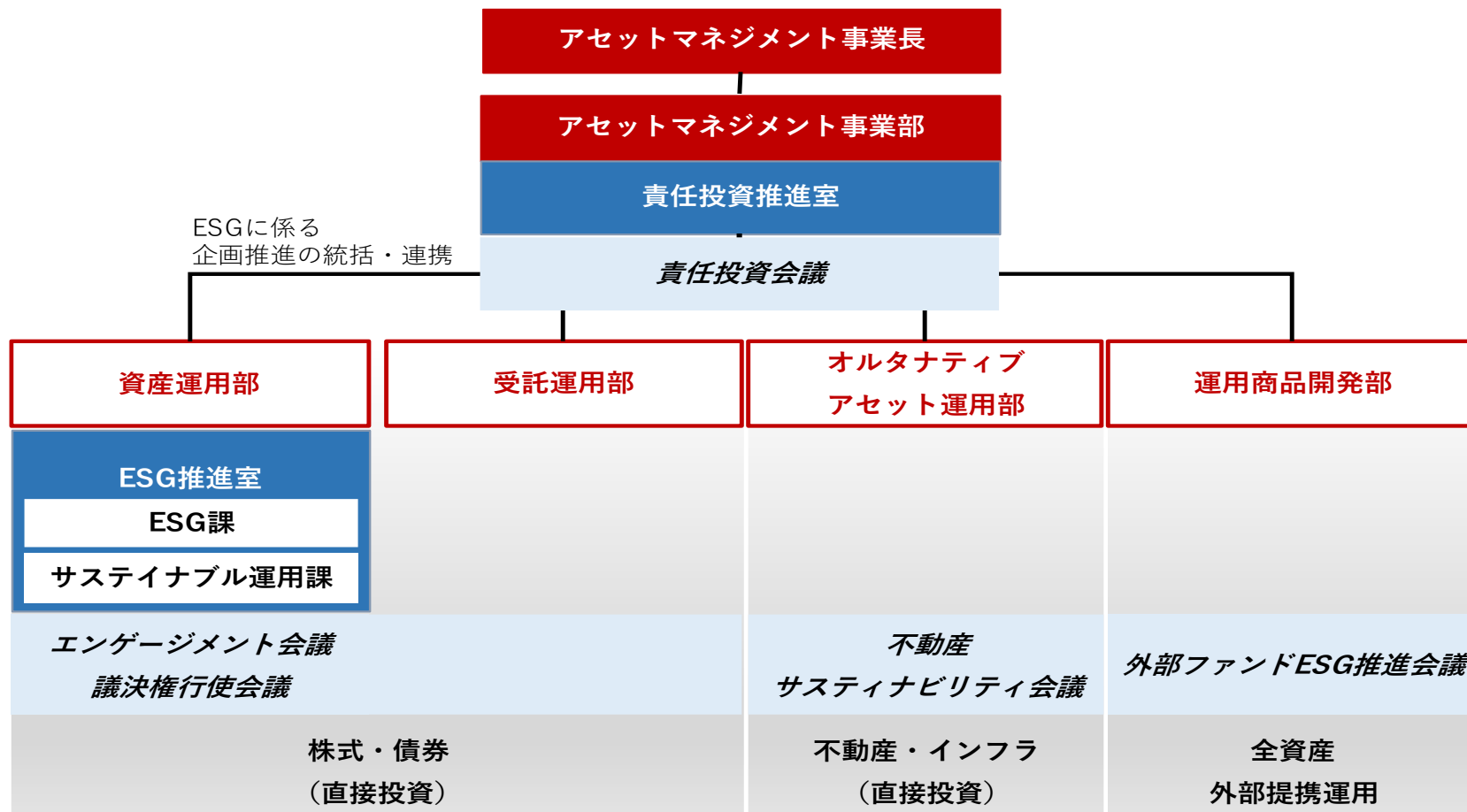


MUTBの運用にとつての重要度

出所:三菱UFJ信託銀行

# 責任投資の推進体制

- アセットマネジメント事業部「責任投資推進室」（2019年4月）設置。
  - ✓ 「重大なESG課題」を全ての運用資産・全ての運用戦略で考慮し、責任投資への取り組みを推進。

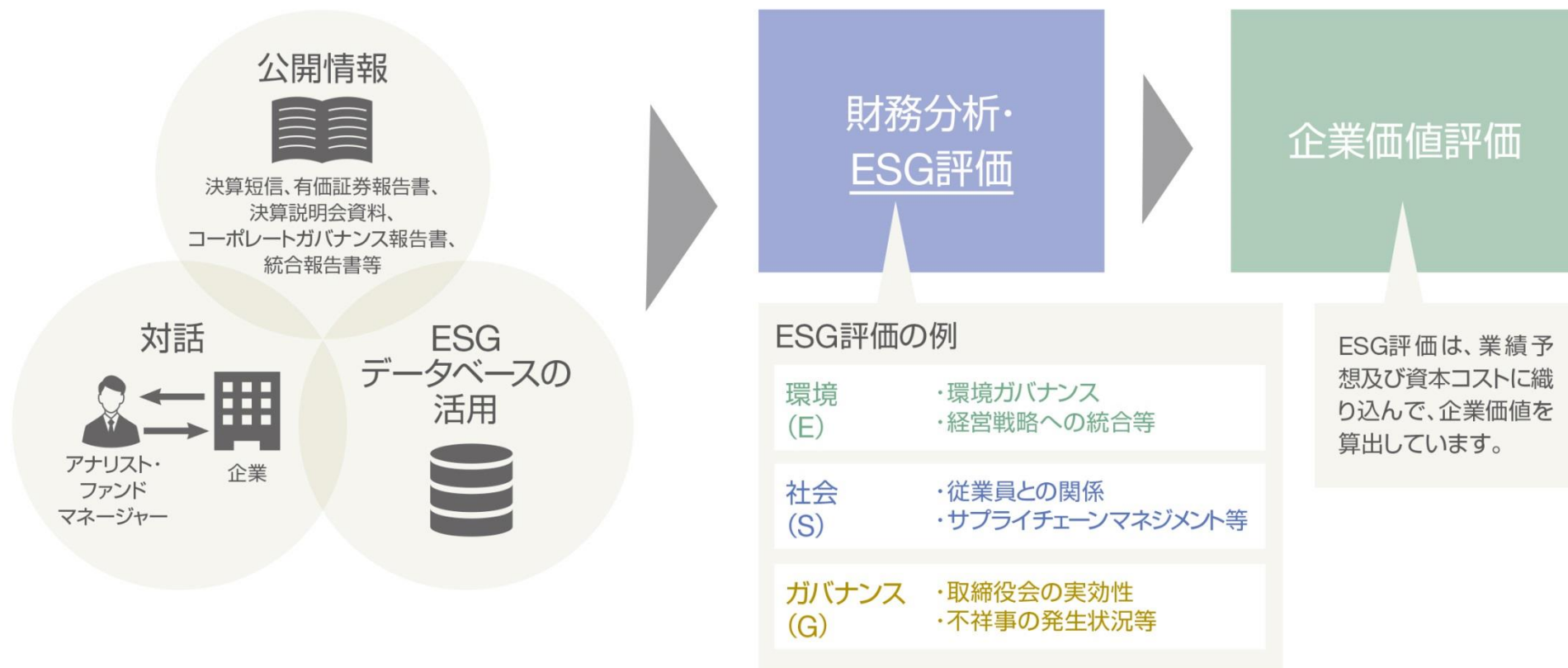


出所: 三菱UFJ信託銀行

# 企業価値評価の「アプローチ」

- アナリストは、財務分析に加え、ESG評価(15項目の業種内比較)を行い、企業価値評価に反映。
  - ✓ 弊社は、企業の財務面のみならず、ESG課題に関しても、アナリストが企業とのエンゲージメントを実施。

## 企業との認識共有



出所：三菱UFJ信託銀行

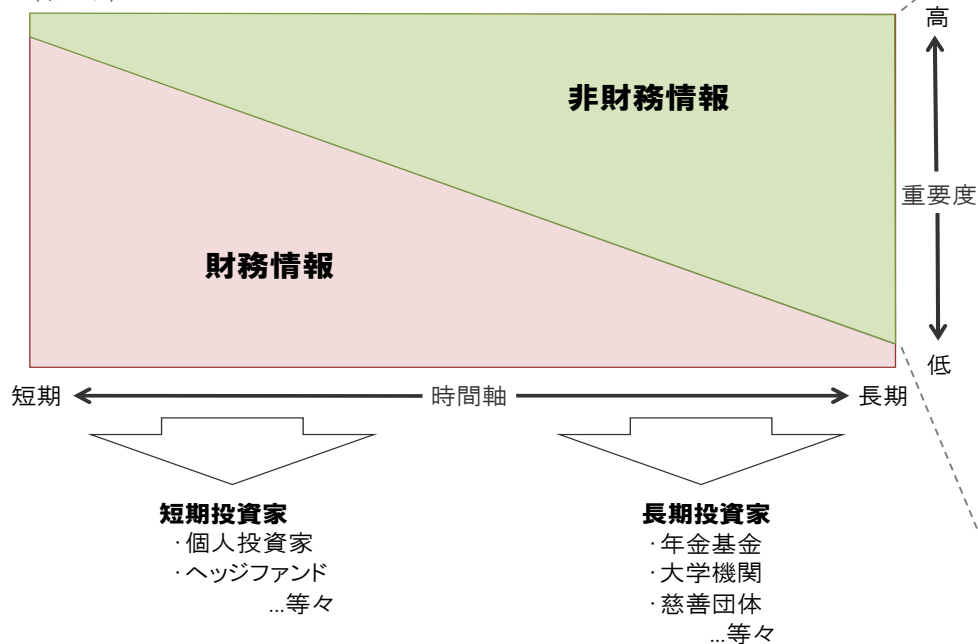
# 企業価値評価の「視点」

➤ 短期視点からは「財務情報」中心、長期視点からは「非財務情報」中心に企業価値を評価。

- ✓ 先行き不透明な状況は、平常時よりも情報開示の重要性が増大。
- ✓ 企業の更なる積極開示を支援。企業を取り巻く状況に即したエンゲージメントを継続。

## 【長期的な投資判断・企業分析と非財務情報】

(イメージ)



出所:三菱UFJ信託銀行

	Environment 環境	Social 社会	Governance ガバナンス
評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 温室効果ガス排出量</li> <li>✓ 水消費量</li> <li>✓ 環境マネジメントシステム</li> <li>✓ 生物多様性保護策 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ダイバーシティプログラム</li> <li>✓ 離職率</li> <li>✓ サプライチェーンモニタリング</li> <li>✓ 品質マネジメントシステム 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 過去の不祥事</li> <li>✓ 贈収賄ポリシー</li> <li>✓ 取締役会の独立性</li> <li>✓ 役員報酬 等</li> </ul>
収益機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 環境規制の変化に応じた事業展開</li> <li>✓ マーケット規模とシェア拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人件費のコントロール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企業の成長性の向上</li> <li>✓ 実現性のある事業戦略</li> </ul>
事業リスク抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 環境規制・ガイドライン遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 離職率低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 企業価値毀損リスクの排除</li> <li>✓ 内部統制</li> <li>✓ 情報漏えいリスクの低減</li> </ul>

持続的な企業価値の向上

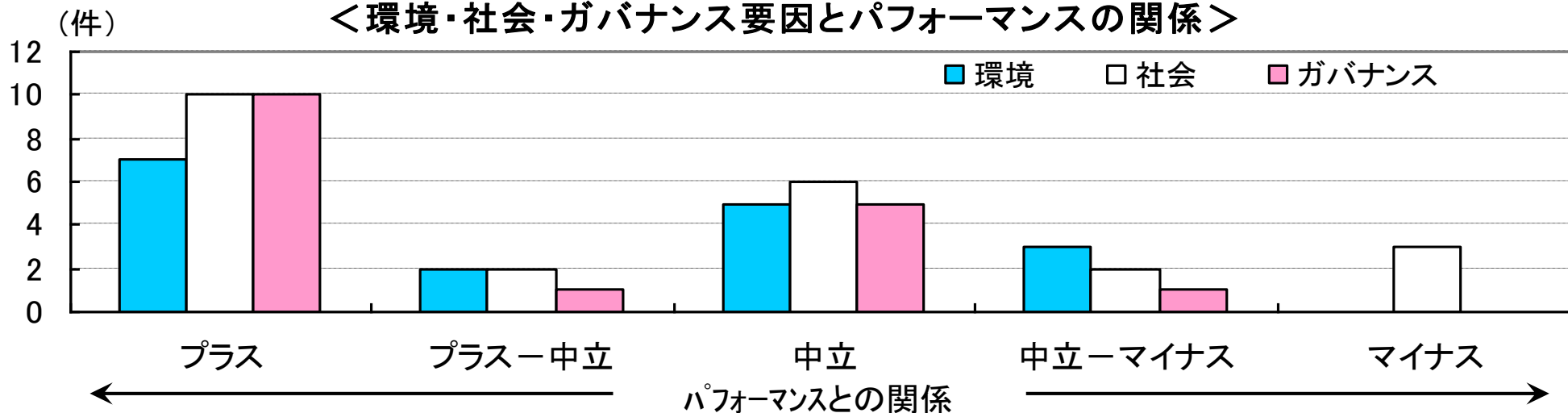
## ご参考

---

## ESG要因と投資パフォーマンスの関係（学術研究36件の分析結果）

- ポジティブな関係                    20件（56%）
- = ニュートラルな関係                13件（36%）
- ▲ ネガティブな関係                 3件（ 8%）

### ＜環境・社会・ガバナンス要因とパフォーマンスの関係＞



出所: UNEPPIアセットマネジメント・ワーキンググループ資料などから三菱UFJ信託銀行作成

# MUFG AM 責任投資ポリシー

- 投資パフォーマンス向上と持続可能な社会の構築に貢献するため「MUFG AM責任投資ポリシー」を策定。
- 弊社、三菱UFJ国際投信、エム・ユー投資顧問、Mitsubishi UFJ Asset Management(UK)が適用。
- 全ての運用資産に対して、ESGの視点を組み込むことを明言(2019年7月)。

【原則1】 銘柄選定:投資分析と意思決定のプロセスにESGの課題を組み込みます。

【原則2】 アクティブオーナーシップ:(運用資産の)活動的な所有者になり、所有方針と所有慣習にESGの問題を組み入れます。

【原則3】 情報開示:投資対象の主体に対してESGの課題について適切な開示を求めます。

【原則4】 普及活動:資産運用業界で本原則が受け入れられ、実行に移されるよう働きかけを行います。

【原則5】 協働:本原則を実行する際の効果を高めるために協働します。

【原則6】 報告:本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します。

出所:三菱UFJ信託銀行

- 本資料は、運用指針(運用ガイドライン)の作成等におけるお客さまの意思決定の参考となる情報の提供を目的としたもので、最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に記載されている数値はあくまでも過去のデータや一定の前提値等に基づく分析およびシミュレーションであり、実際の運用成果等を約束するものではありません。分析手法、モデルおよびシミュレーション手法は完全なものではなく前提値に大きく左右されるほか、その内容も情報提供時から予告なしに変わっている可能性があることをご留意下さい。なお、前提値には当該資料に記載した内容のほか、分析手法、モデル、シミュレーションの内容も含まれます。
- 当社は、いかなる場合であっても、本資料の提供先ならびに提供先から本資料を受領した第三者に対して、あらゆる直接的または間接的な損害等について、賠償責任を負うものではありません。また、本資料の提供先ならびに提供先から本資料を受領した第三者の当社に対する損害賠償請求権は明示的に放棄されていることを前提とします。
- 本資料に記載している見解等は本資料作成時における判断であり、経済環境の変化や相場変動、年金制度や税制等の変更によって予告なしに内容が変更されることがあることを予めご了承下さい。
- 本資料の著作権は三菱UFJ信託銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行

アセットマネジメント事業部 加藤正裕 Tel: 03-3287-9489

(受付時間:9:00~17:00(土日・祝日除く))